

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400988		
法人名	医療法人 安田会		
事業所名	グループホームるしだ		
所在地	熊本県玉名市横島町横島3399番地1		
自己評価作成日	平成24年2月24日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成24年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは国道に面しているが通り沿いからは全く見えず、便利な立地ながら隠れ家のような面をもっている。平地で集落の中にあるため、入居者の散歩にも便利で、地域住民も徒歩や自転車で気軽に訪れる。遠方の方には、同一敷地内にバス停もある。
職員は、限られてた人数でもチームワークで懸命に業務を行っている。そうした人材が定着していることが当ホームの最大の強みであり、入居者の方は自由な中にも安全で落ち着いた生活ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングが広く利用者それぞれがゆっくりとする場所があります。広いリビングからは風情ある庭の景色が堪能でき、その庭は車椅子でも散歩できるような造りとなっています。日常的な外出支援として庭の散歩を生活習慣の中に組み込まれてはいかかでしょう。開設から8年となり理念の見直しをされ、利用者の思いや意向を職員それぞれが確認し認識を深めていこうとされています。グループホームとして家族や地域が模索している認知症の初期段階の方を支援していく体制の充実が今後必要となってくることでしょう。その体制作りを併設の病院や老人保健施設、地域と連携しながら取り組んでいかれることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念で、心機一転事業を行っている。「その人らしい生活」を支援することで家庭的な暮らしを充実させていきたいが、理念の実践という意味では、まだ不十分と感じている。	スタッフや、利用者の行動を理念と照らし合わせながら、月1回の定例会の際に勉強会をされています。理念の具体化ができていないため、不十分と感じられておられるようです。	理念を見直されたばかりのようです。今後具体化され深められていくことでより一層理念が身近なものとなることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から数名のボランティアの協力はあるが、もっと日常的に関わってもらえる地域の方を探している。まだ実現には至っていない。	老人会等の集団慰問が地域との付き合いの一環になっているようです。現在地域の方々の日常ボランティア協力を検討されています。	ボランティア活動には事業所からの継続的な働きかけも大切です。又、職員が地域のグループホームという事を考える機会や認識する事も必要なことでしょう。その中で地域のグループホームとしての役割を見出されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座等で市町村や地域包括支援センターに協力している。中学生の職場体験から大学生の看護実習まで、学生も幅広く受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は活動報告と勉強会が中心になっている。運営に対する意見を出し合う雰囲気にするのは難しく、今後はメンバーの追加も考えていこうと思う。	活動報告が中心となり、ボランティア等の呼び掛けも行っておられますが、意見等も少ないようです。	きびしい意見等どんどん言ってほしいという事業所の要望もあっています。その為にはどうしたらいいか検討していかれ、活発な意見交換が多くなるといいですね。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定更新等で定期的な訪問を通して相談しやすい雰囲気を整えている。	地域包括支援センターとの連携を中心に市町村との連携をとるようにされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会で学んだことを、ホーム内の勉強会に取り入れ報告会としてフィードバックしている。	玄関は夜間のみ施錠するようにされています。身体的な拘束のみならず、言葉での制御等も含めて事例検討しながら理解を深めて行きたいと考えられています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを基に、必要時には検討会の場を設けて注意を喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	顧問弁護士による個別相談や勉強会などサポート体制ができています。日常生活自立支援事業については、社協とは連携不足であり、今後学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院時の取り決めや個人情報等重要なポイントはじっくり時間をかけて説明している。報酬改正のような時は重要事項説明書を再度発行し、一人一人説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年のように家族会を行ってきたが、以前より出席者の数が減少している。また、面会の回数も減少傾向である。家族の仕事の都合もあるので仕方ない部分もあるが、事業所の働きかけが足りないのか、検証していく必要がある。	誕生会への家族招待や面会時、電話や文書等で利用者状況を家族に伝えられています。年1回の家族会やアンケート、面会時等で意見を聞く機会をもたれていますが意見は少ないようです。	年数の経過とともに家族の状況も変化してくることで、家族が利用者の24時間が見えなかつたりすると運営に関する意見も言い出せないものです。事業所の検証に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会議が行われているが、各職員に意見を求めて双方向性が強いものにするよう努めている。	日常的にも定例会でも意見交換は活発に行われているようです。行事の取組み等も職員企画ですすめられ、レクリエーションの物品もホーム長の判断で必要な際は直ぐに購入する等、職員のやる気を損なわないようにされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じ、勤務の仕方も考えている。また、職員の気づきも大切にし、長所を生かせる環境ができるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設が勉強会に力を入れているので、グループホームに関連がある勉強会には出席することで、少数数の不便な部分をカバーしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の支部会、認知症サポーターのネットワークを大切に、会合には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や情報収集を行い、関係作りが行いやすくなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームのサービスは特に家族の期待が大きいため、入居申込みから受入の間に十分な聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人への支援の中で、必要であれば、併設施設の看護師、理学療法士、管理栄養士等の相談を受けることができる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ある程度活動が鈍くなってきた方にも、なるべく簡単にできる家事活動からでも関わりをもてるように、環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族会時には、日頃の様子を伝え、家族の想いも確認し、本人の支援に活かせるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会のミサに参加する方への支援は途切れないよう努めているが、他の利用者の方に対して積極的な働きかけはできていない。	新たな馴染みの関係構築を支援されています。	今の状態で落ち着いておられるので、馴染みを引き出すための働きかけが少ないのではないのでしょうか。その働きかけも大切です。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入浴の順番や、食卓、ドライブ時の位置等において、それぞれの関係がこわれないように配慮して決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期になると契約終了になるが、希望があれば併設施設で受け入れ、当ホームへの入居待機という対応を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動や家族との話し合いの場で、家族の負担も配慮しながら支援できるよう努めている。	本人の以前の1日の生活の流れを知り、思いを意向を把握するように努められています。スタッフ一人一人に対して利用者の方の違った反応があり、「〇〇様ってどんな人」シートを各スタッフで確認し深める事を計画中です。	基本的なニーズは変わらずに変化を認識し対応して行くことが大切です。計画中のシートが今後どういう風に活用されるか楽しみです。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や面会時の話の中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や日誌等を活用し、個々の状態が把握できるような体制を作っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	経過記録を利用し、気づきを生かした支援ができるように努めている。必要時には、電話や面会時に話し合いの場を設け、報告、情報収集ができるように努めている。	スタッフや家族からの情報をもとに介護支援専門員である管理者が計画作成やモニタリングを行い、カンファレンスで確認するようにされています。家族等へは面会時に管理者とスタッフで説明し共有するようにされています。	スタッフ一人一人の日々の気づきや対応策を計画として、文書に落とし込み、より一層のスキルアップを図りたいとの事、その為の第一段階として「どんな人シート」があるようです。取組に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて現状を把握、情報の共有をし、サービス提供に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生会や家族会時に本人と家族で食事を楽しんでもらいたいため、無償で食事を提供したりと、可能な範囲で柔軟なサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の理容室には「お得意様」として親切なサービスをしてもらっている。運営推進会議のメンバーである民生委員の方からも、地域の入居者の方へ定期的に声をかけてもらえる関係になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所には職員が送り迎えするが、個々のケースで家族の協力を得ながら、他のかかりつけ医にも通っている。必要に応じ各主治医への情報提供や面談も行っている。	家族や職員支援で専門医やかかりつけ医の受診支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師の協力で、様子を見にきてもらったり、日誌や体温表で状態報告を行ったりと密に連携をとっている。夜間も看護職が一人勤務しているので、緊急時には応援に来てもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時に情報交換を行っている。入院中にも経過状況の確認を行い、病院側、家族との調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を大切にしながら主治医にも相談し、家族との面談も行っている。	本人、家族、かかりつけ医と話しあい、身体状況に応じた対応をするようにされています。併設の病院や老人保健施設があり、医療連携がとられ、スタッフの安心感に繋がりが取りの取組も行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生法等の応急手当の訓練を消防署に依頼している。また、ホームには設置していないものの外出時の手当を想定し、AEDの訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する訓練は充実しているが、東日本大震災のことを考えると、地震対策は不足していると感じている。	火災で避難後の二次災害等も検討しながら、訓練に望まれています。	地震、津波等どうしようもない大災害もあるでしょうが、常日頃から「その時はどうする」といった話しあいや、避難場所をスタッフ、家族、地域の方々と共有することも大切です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	玄関にガラスフィルムを貼り外から覗けないようにしたり、必要な居室にのれんをつけたりと、プライバシー対策を強化している。	居室の暖簾の長さを必要に応じて換えたり、玄関のガラスドアのフィルム等、住居的にも配慮するよう取り組まれ、言葉掛けや態度等にも注意するようにされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り、個人で選択できる場面をもち、意見が取り組めるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそうよう努めているが、重度化した方のケアに時間を割くことで、他の方への生活支援が十分にできない場面があった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得ながら、個人にあった身だしなみやおしゃれができるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力によりそれぞれの方が役割をもって、食事の準備等に関わっている。誕生会では、本人の好きなメニューを家族も巻きこんで企画している。	下ごしらえを一緒にしたり、一人一人に添った食事形態を考慮し、行事の際はチョコレートフォンデュを企画する等、職員、利用者が同じ空間で会話のある食卓を提供する事で楽しむながら食べる事ができるよう支援されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ食事(水分)形態を変えたり、状況や嗜好に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせた口腔ケア、義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要時には、チェック表を活用し、排泄パターンの確認を行い、個人に合わせた誘導を行っている。	排泄が自立されている方も多く、状況に応じてチェック表を活用し排泄誘導がされているようです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を毎日行っている。食事には季節の野菜や果物を取り入れ、固めの食材については、調理の仕方も工夫している。飲み物も状況に応じ、種類を選んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必要、要望時の入浴は対応できている。	週2回を基本として入浴支援が行われています。浴槽の段差はありますが、手すり等があり2人で入っても十分な広さや、個浴対応など柔軟に対応できる浴室となっています。	広い浴室で時には利用者同士数名で入り温泉気分も演出できそうですね。今後も入浴を楽しむことができる支援に色々な方面から取り組まれていかれる事を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活パターンの中で状況に応じて、または希望時に休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の職員がホームに薬を届けに来るので、業務中でも薬の説明を丁寧してもらえる。内服の変更があれば、薬効、副作用を知り、口頭又は申し送りを通じ、職員間で確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動への参加が習慣となり参加したり、状況に応じた声かけで参加したり、様々なパターンがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化により日帰り旅行等が難しくなる中、ホテルのケーキバイキングに行くことを企画した。ケーキも美味しかったが、ホテルのような普段行けないような所に皆様を案内できたこと、また全ての方に予想以上に感動してもらえたことで、良い支援の一例になった。	イベント外出は計画的に行われています。広くて風情ある事業所の庭や広い駐車場を利用した日常的な散歩は少ないようです。	日常生活のリズムに周辺散歩を取り込まれてはいかがでしょうか。室内から素敵な庭は臨めますが外気浴として庭にでるだけでもいい気分転換になることでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得ながら、お金を所持する入居者もいる。可能な方には、できるだけ自分で財布からお金を出して払うところまでやってもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、自由に利用できるよう支援している。希望があれば電話番号を調べたり、職員の方で番号を押したりと支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくて広い室内は、居心地がよく安全と来客の方にも評価が高い。広い庭園を利用して、夏には流行したグリーンカーテンを試みたが、皆様に大変好評だった。	玄関から丸見えだった室内がフィルムでいい具合になっています。広く風情ある庭は車椅子でも行くことができるように造られ、その風景を室内からも堪能することができます。天井が高く、明かり取りがあり、ゆったりとした共有空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングの各所にイスやベンチが設置されており、1人になったりグループになったり多様なライフスタイルが可能である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームとしては最小限の設備を用意するだけで、契約時に本人の馴染みのあるものを持ち込んでほしい旨を伝えている。	本人が使いやすいようにそれぞれに添った部屋作りをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の理解度により、トイレや居室等の表示の仕方を検討したり、足腰の状態を見て、キャスター付きのイスを固定タイプに替えるというように、日々の生活の中で臨機応変に対応する。		